

学科長 田村 梨花

新入生の皆さん、上智大学外国語学部ポルトガル語学科へようこそ。

2020年は、世界中の全ての人が、100年ぶりの地球規模パンデミックに直面することとなった年でした。新型コロナウイルスの感染拡大が日常を次々と変容させ、これまで私たちが「普通のこと」と思ってきたことをことごとく覆してきました。自らの、そして他者の命を守るために、国境を越える移動はおろか家から出ることにも制限され、友達と会って話をするという望みさえ我慢しなければならない。「しばらく海外には行けないだろう」「外国のことなんかよりも、自分の国のことが大切」「人のことよりも、自分の生活が心配」と、不安と恐怖が人を内向きにしてしまうような時間が続いたこの年を高校生として過ごしてきた皆さんが、人生で最後の学び舎として上智大学外国語学部ポルトガル語学科を選んだことを、本当に嬉しく、そして頼もしく思っています。

その理由は・・・私がここに書く必要はないかも知れません。皆さんの脳裏には、すでに世界がかけがえのない一つの存在としてあり、ポストコロナの時代を地球市民としてどう生きるか、今この時だからこそ世界に目を向けて、知を蓄える行動につなげる時間を「ポルトガル語圏」とともに過ごそうと決めたからではないでしょうか。皆さんの関心はそれぞれ異なるでしょう。ヨーロッパに位置する本国ポルトガル、南米の大国ブラジル、アンゴラやモザンビークといった近年の急速な発展が注目されるポルトガル語圏アフリカの国々、そして日本と国際協力のつながりの深い東ティモール。あるいはすでに20万人にのぼるブラジル人コミュニティが存在する日本の多文化共生の現状に興味を抱いた人もいるかも知れません。ポルトガル語学科での学びをつうじて、「ポルトガル語」でつながる多様な地域の多彩なテーマを追求して下さい。その時重要なのは、「私って、何が好きかな？」という感性ではないかと、私は思っています。

このESCADA（エスカダ）という冊子は、ポルトガル語学科の学生が経験するさまざまな事柄に関する情報を集めたものです。ESCADAとは、ポルトガル語で「階段」。一步ずつ、着実に、自分だけが歩むことのできる階段を上って行ってほしいと願っています。ポルトガル語の習得には受験勉強とは異なる努力と粘り強さが必要となります。ただ、同時にその積み重ねから得られる力が、皆さんの視野を広げ、人生を想像以上に豊かにしてくれるはずです。皆さんの出会うポルトガル語圏の魅力を聞かせてもらえることを楽しみにしています！

2年次以上の皆さんへ

2021年4月より、対面授業が始まる予定です。2年生は、オンラインとは異なる「大学」の授業にはじめは戸惑うこともあるかも知れませんが、予習復習をしっかりとこなせば語学力は必ず身につきます！研究コースの選択など、自分の関心分野を探る大切な時期となるでしょう。3年生はそのテーマを明らかに

する研究を進めながら、進路について自分と向き合う時間に、4年生は、就職活動やゼミ論・卒業論文に集中する一年になりますね。心身の健康を第一に、上智四谷キャンパスで充実の時間を過ごして下さい！